



職業安定局 派遣・有期労働対策部
企画課 雇用対策係

なか むら し ほ
中村 詩帆

●学生時代の専攻：
臨床心理学

経歴

平成24年 厚生労働省入省 職業安定局 派遣・有期労働対策部
若年者雇用対策室に配属、北海道労働局で地方研修

平成25年 職業安定局 高齢者雇用対策課
～高齢者雇用対策のとりまとめ業務や
高齢者雇用安定法に関する資料作成、疑義対応を担当～

平成26年 職業安定局 雇用開発部 雇用開発企画課
～部内のとりまとめ業務や雇用管理改善の企画、
助成金に係る政省令等の整備を担当～

平成27年 現職

風通しがよくて、でも熱い、そんな職場

厚生労働省の志望理由

私は学生時代、臨床心理学を専攻し、カウンセリングなどを通じた個人へのケアについて学んでいました。このため、当初は厚生労働省への就職は考えておらず、病院やクリニックでの実習に駆けまわる毎日でした。

しかし、ある実習先で話を伺っていた時、デイケアへ通われている方の中で、もうかなり良い状態になってきているにも関わらず、就職先が見つからないために通常の生活に戻っていきたくないような状態の方がかなりいることを知りました。個々人の持つ障害へのケアはもちろん大切ですが、そこから自立へつなげていくには、就労をサポートできるような仕組み作りが重要ではないかと感じました。この時の経験がきっかけとなり、障害者雇用などの仕組みづくりに携わることのできる厚生労働省で働きたいと思うようになりました。

現在の職務内容について教えてください

私の所属する係では、非正規雇用労働者の企業内でのキャリアアップを支援するキャリアアップ助成金と、就職が困難な方の試行雇用を支援することで常用雇用へ移るきっかけを作るトライアル雇用奨励金を所管しており、その制度設計や対外的な説明、広報、運営といったさまざまな側面から関わっています。

具体的には、助成金をより適切に使ってもらうために見直すところがないかの検討や、資料作成のほか、求めに応じて書面や口頭での説明を行っています。また、助成金ホームページ、リーフレットの作成も行っています。加えて、助成金の利用状況をチェックするために実績を把握し、全国で統一した対応ができるよう、労働局・ハローワークから寄せられる質問への回答や意見交換会の企画なども行っています。

職場の雰囲気教えてください

今の職場の雰囲気を一言でいうと、とても風通しがよいです。私が今の部署に配属されてすぐの頃、制度変更したこともあり、助成金の問い合わせや相談が殺到していました。当時の課内は忙しく、上司はゆっくりと席に座ってられない状態でした。そんな中でも、業務について相談すると、最後までしっかりと話を聞いて方向性を示してくれました。案件によっては、その場でさらに上の上司も加わっての議論になりました。今も、何でも相談しやすい職場で、毎日のびのびと働くことができます。

また、忙しい中であっても、ワークライフバランスにも配慮がされています。月に1日は有給取得ができており、時間単位での有給も取りやすいです。「今月休んで？」と上司から声をかけてくれることもあります。

受験生へのメッセージ

厚生労働省での仕事内容は多岐に渡ります。デスクでホームページ作りをすることもあれば、国会に資料を届けたり全国の担当者を集めての意見交換会に参加したりすることもあります。学生時代には想像もしなかった経験が出来るので、入省前のイメージよりもずっと刺激的な職場だと感じています。

また、所管の施策をより良くするには何が必要なのか、職員一人一人が真剣に考えていて、その熱くて前向きな雰囲気にいつもやる気をもらえる職場だと思います。自分がこうなりたいと思えるような魅力的な先輩や上司がたくさんいることもこの職場の魅力だと思います。



職業安定局 雇用開発部
地域就労支援室 職場適応援助係長

こ び やま あや な
小檜山 綾那

●学生時代の専攻:
教育心理学

経歴

平成23年 厚生労働省入省 職業安定局 派遣・有期労働対策部
若年者雇用対策室に配属、静岡労働局で地方研修
平成24年 職業安定局 首席職業指導官室
～マザーズハローワーク関係、介護・保育・看護人材確保対策を担当～
平成25年 職業安定局 障害者雇用対策課
～障害者雇用促進法改正、
法定雇用率未達成企業に対する指導を担当～
平成26年 現職



誰もが抱える「凸凹」を「特性」として生かせる社会を目指して

厚生労働省の志望理由

当初は教育関係の仕事に従事したいと考えていましたが、大学のゼミでうつ病の患者さんの職場復帰支援を行っている企業に伺った際に、人の一生の大半を占める職業人生を支えることの重要性を考えるようになったのがきっかけです。

厚生労働省では、心理学を活かして職業安定行政に携わることができることや、本省勤務と地方勤務というマクロとミクロの視点を行き来しながら働くことのできるキャリアパスにも魅力を感じました。何よりも決め手となったのは、学部3年次に参加したインターンシップで、人間科学職の先輩が多くいらっしゃる若年者雇用対策室に配属となり、魅力ある先輩方と時間を共にする中で「働く自分」の具体的なイメージを持つことができたことです。入省1年目で若年者雇用対策室に配属されたこともあり、スムーズに勤務を開始することができました。

現在の職務内容について教えてください

地域就労支援室では、障害者の中でも近年増加している精神障害者、発達障害者、難病患者などの方に対する支援をしています。

私は、発達障害者や難病患者の方の就労支援を担当しており、そういった方の雇用が進むよう施策の企画立案、予算の確保、国会対応、当事者団体との調整などを行っています。

また、企業で働く障害者の方が増加するなかで、その職場定着を促す重要性が高まっていることから、職場で障害者の職場適応援助を行うジョブコーチによる支援や、企業の方が障害者の方の職場定着・職場復帰を進めるための助成金制度も担当しています。

障害者の方が働く現場に伺う機会もあります。様々な分野

で活躍される障害者の方々の姿を見るたびに、障害があるうとなかろうと、私たちは多かれ少なかれ得手・不得手のある「凸凹」な存在であると感じます。それらを「特性」として生かしながら参加できる社会の実現に取り組みたいと考えています。

今後の目標を教えてください

最近では、労働の分野にとどまらず、福祉の分野でも人間科学職の知見を生かして活躍する先輩方もいらっしゃいます。私自身、まだまだ幅広い勉強が必要ですが、福祉や医療の分野と、労働の分野の懸け橋になれる人材を目指したいと考えています。これまでの業務経験でも、保育、介護、看護、障害、難病、小児慢性疾患等、様々な部局と連携・調整を行ってきましたので、その中で得られた知見・人脈を生かして様々なフィールドで活躍できるようになりたいと感じています。

受験生へのメッセージ

皆さんは就職活動を通じて、試験や官庁訪問等の慣れないルールに従い、採用に向けた自己アピールをしていかなければなりません。相手に分かりやすく物事を伝える力、膨大な情報を噛み砕き適切に対処する力など、仕事をするうえで重要なスキルが磨かれる貴重な時期でもあると思います。ぜひ、一つ一つの出会いや体験を大切にしながら、大切な進路を決定していきましょう。

また、インターンシップやオープンゼミなどの機会を生かして、私たちが働く職場のリアルな姿をぜひ知ってください。皆さんにお会いできるのを楽しみにしています！



独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構
東京障害者職業センター 障害者職業カウンセラー

えん どう けい じ
遠藤 径至

●学生時代の専攻：
実験心理学、臨床心理学

経歴

- 平成22年 厚生労働省入省 職業安定局 首席職業指導官室に配属、北海道労働局で地方研修
- 平成23年 職業安定局 派遣・有期労働対策部 若年者雇用対策室～若者雇用対策の国会対応、広報業務、委託事業を担当～
- 平成25年 職業安定局 地域雇用対策室～地域で雇用を増やす事業主への融資利子を補助する事業の立ち上げを担当～
- 平成26年 職業能力開発局 キャリア形成支援室
キャリアコンサルティング係長
～キャリア・コンサルタントの養成計画、能力向上のための研修を担当～
- 平成27年 現職

見えるものを見、見えないものを感じ取る努力

厚生労働省の志望理由

大学院の臨床心理学専修課程在籍中は発達障害を持つ子どもを支援する仕事を志望しており、修了後は非常勤の仕事をかけ持ちしていました。その後、常勤職を目指して求人情報を調べる中で、国家公務員として厚生労働省で働くという選択肢を知りました。

当時は、労働行政はおるか、働くということ自体も正直あまりわかっていなかったと思いますが、元々志望していた直接支援とは違う形で、制度を通じて人を支援できるということに漠然とした魅力を感じ、その思いは、官庁訪問などを通じて業務内容を知るにつれ、次第に強くなっていきました。

現在の職務内容について教えてください

東京障害者職業センターは、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構が全都道府県に設置している地域障害者職業センターの1つです。このセンターでは、障害のある方への就業支援、障害のある方の採用・雇用管理に関する会社への支援、地域の就労支援機関への助言、の3つを業務の柱としています。

私は平成27年4月に厚生労働本省から、障害者職業カウンセラーとして東京障害者職業センターに出向し、主に障害のある方への就業支援を担当しています。具体的には、障害者の方がセンターに初めて電話をくださったときのご案内から、実際に来所いただき細かいニーズをお聞きする初回面談、さらに、就職や職場定着に向けてご本人の強みや課題を探るための作業や検査による職業評価、その後の支援プランの提案などを行っています。

カウンセラー業務と本省での業務経験を通じて感じていることを教えてください

カウンセラーとして就業支援の現場に出て感じたのは、障害のある方の就業支援は、ご本人、ご家族が中心になり、私たち職業カウンセラー、厚生労働省本省、当機構、ハローワークの専門援助部門、自治体の就労支援機関・福祉事務所、医療機関、企業の人事担当者、患者会など、多くの関係者が連携しながら進めていくものだということです。関係者の方々が持っている知識、大切にしている点がそれぞれ違うことから、同じ目標に向けた協働関係を築くためには、直接やりとりする中で先方のことを知ろうとすること、私たちにできることを説明し続けることが大切だと実感しています。

今は、目の前の方の就業に向けて少しでも良い支援をすること、そのために精進することが一番の関心事項です。厚生労働省に戻ってからは、見えるものを見、見えないものを感じ取る努力を続け、政策の対象者が抱える課題を把握し、対象者の主体性を大切にしたい支援を提供していくためにこれらを、どうすべきかを考えていきたいです。

受験生へのメッセージ

厚生労働省、人間科学職の仕事に限らず、世の仕事というのは、どんな形であれ、それが生み出す価値を通じて他の人や社会と繋がっています。私たちの仕事は、成果や手応えが見えにくいかもしれませんが、多くの人の「働く」を支えるものだとは信じています。このパンフレットをお読みになって、なにか心にとまるところがあれば、厚生労働省で働くということを選択肢に入れていただけると嬉しいです。



職業能力開発局 能力開発課 課長補佐

ふじ い たけし

藤井 剛

●学生時代の専攻:
臨床心理学、社会心理学

経歴

- 平成10年 労働省入省
- 平成13年 職業安定局 外国人雇用対策課 雇用対策係長
～外国人の受入れに関する研究、国際会議への出席を担当～
- 平成14年 ドイツ(ドレスデン工科大学)留学(人事院長期在外研究員)
～ドイツの職業教育制度(デュアルシステム)を研究し、日本へ紹介～
- 平成19年 東京労働局 職業安定部 職業安定課長
～NOVAの経営破たん対応、年越し派遣村対応の現場指揮～
- 平成22年 在チェコ日本国大使館一等書記官
～日チェコ社会保障協定、滞在ビザ、労働許可証等に関する交渉を担当～
- 平成25年 職業安定局 就労支援室 室長補佐
- 平成27年 現職



人の気持ちが分かる行政官を目指して

厚生労働省の志望理由

中学時代に交通事故にあった私は、せつかく助かった命を世のため、人のために役立てたいと考えていました。しかしながら、行政の仕事は私にとって未知の世界で、とまどいがあったのも事実です。

官庁訪問をし、先輩方の話を聞くにつれて、厚生労働省の仕事が一人一人の生活に直結したものであること、本省勤務のみならず地方勤務もあるほか、留学したり、外交官になるなどいろいろな経験ができること、そして、どうしたら国民の生活が良くなるのかを真剣に考えていく人々と仕事ができることに魅力を感じました。

現在の職務内容について教えてください

私が所属している能力開発課は国や都道府県等が行う公的な職業訓練を所管しているところです。職業訓練には離職者が再就職に必要なスキルを身に付けるものや在職者がスキルアップをめざすものなどがあり、年間約31万人(平成26年度)が受講しています。能力開発課では訓練が効果的かつ効率的に行われるよう、訓練を実施する都道府県や独立行政法人と調整を行うとともに、必要な制度の見直しなどを行っています。

その中で私は企画・調整担当として、若年非正規労働者が働きながらも受けやすい訓練カリキュラムを開発したり、育児等でブランクがある方も参加しやすい短時間訓練や託児サービス付き訓練の設定を促進したりしています。こうした取り組みにより、一人ひとりの能力を有効に発揮できるようにすることで、日本全体の経済・社会の発展にも資するやりがいのある仕事だと思えます。

入省してよかったと思える瞬間はどんな時でしょうか

やはり、自分の考えたことが現場でうまく機能しているときでしょうか。例えば、前の部署では生活困窮者の就労準備状況を判断するためのツール開発を行いました。ハローワークでは就労準備が整った生活保護受給者等を自治体から誘導して支援する取り組みを行っていますが、当時、一部の自治体とは必ずしも連携がうまくいっていませんでした。そこで、現場の声を丁寧に聞いてみると、就労意欲などの見方に両機関で差があることが分かってきたので、就労準備状況をできるだけ客観的に見極められ、関係機関で認識を共有できるツールができないかと考えました。

財務省に予算要求をし、検討委員会を立ち上げて、アンケート調査等を行い、研究者や職場の上司、同僚とも何度も議論を重ねて、ツールを作り上げました。構想から完成まで一年以上かかりましたが、現場の職員からもポジティブな評価をいただき、研修材料としても使われていると聞いて疲れも吹き飛んだのを覚えています。

受験生へのメッセージ

厚生労働省の仕事は、どれもが今どんなことが必要とされているかを考え、その実現に向けて取り組んでいくことが基本となっています。そのためには、人間科学で学んだ「人の言葉に耳を傾ける姿勢」や「冷静に目の前の事象を分析する力」が大いに役立ちます。

日本は本格的な人口減少社会に突入し、労働力人口も減少する中で、今後は、人手不足に悩む経営者の焦り、なかなか正社員になれない人の徒労感、老後も含めた生活への不安、こういった気持ちに寄り添って仕事をしていくことが必要になると思います。厚生労働省には皆さんの活躍の場がたくさんあります。サービス精神旺盛で人の気持ちを思いやることができる人、ぜひ一緒に仕事をしませんか。